

**「病院での呼び方、呼ばれ方」**  
医師が望む呼称…患者/医師/業者の人間模様

＜医師アンケート調査の結果報告書＞

平成21年5月18日

株式会社QLife(キューライフ)

## 結論の概要

9割の医師は患者を「名前呼びたい」とし、「患者様」が良いと考える医師はほとんどいない。

一方、患者から「名前と呼ばれる」ことを望むのは開業医や若年層に多いが、全般的には単なる「先生」が好み。

医療業界の慣習である「御待史」などの特別尊称(脇付)に関しては、業者に使われる場合は半数が違和感を覚え、16%は“止めてもらいたい”とする。

ただし医師同士ならば自然だと感じる人が多い。この傾向は、「女性」や「眼/耳鼻咽喉系」「精神科系」に強い。

### 1) 患者を、「〇〇さん(〇〇=名前)」と呼びたい

89%が、患者を名前呼びたいと考えている。患者を“個別の事情を持ったひとりの人”として、コミュニケーション構築しようとしている様子が伺える。

賛否両論が多い「患者様」が好ましいとする医師は2%のみ。「患者さん」も不人気だった。

### 2) 患者からの呼びかけは、名前でなく、単なる「先生」が好み

一方で「患者からどう呼ばれたいか」を聞いたところ、66%が単に「先生」が良いと答えた。

名前付きで「〇〇先生(〇〇=名前)」と呼ばれたい医師は、全体では28%。ただし30代や開業医層に限れば39%、37%と少なくない。科目別では、産婦/泌尿肛門系や精神科系に多く、デリケートな診療が多いほど、より近い関係性構築を望む様子が伺える。

### 3) 業者からの「御待史」尊称には、半数が“違和感”

医療業界の慣習となっている医師尊称(脇付)に対しては、51%が“違和感”と答え、16%は“できれば止めてもらいたい”と思っている。4割の人が数十年その文化に浸っても慣れないと答えたことから、不自然な慣習とも言える。

### 4) 医師同士の「御待史」なら、やや自然

医師同士なら、特別尊称に違和感を覚える人が43%に減る。プロ同士として尊敬の念が自然ということだろうか。あるいは紹介状を書く際など、謹んで自分の患者を委ねる謙譲の意味合いが込められるからだろうか。特に「女性」や、「眼/耳鼻咽喉系」「精神科系」に、業者ケースと比べた時の減少幅が大きく、より専門職意識が強い属性と言えるかもしれない。

## 【調査実施概要】

▼調査責任  
株式会社QLife

### ▼実施概要

- (1) 調査対象: 30歳以上の医師
- (2) 有効回収数: 300人(開業医150人、病院勤務医150人)
- (3) 調査方法: インターネット調査(調査実施機関: 楽天リサーチ株式会社)
- (4) 調査時期: 2009/04/21~2009/04/23

### ▼有効回答者の属性

(1) 性・年代:

	男	女	計	
30代	21%	8%	29%	27%
40代	29%	7%	36%	29%
50代	23%	2%	25%	23%
60代~	9%	1%	10%	22%
計	82%	18%	100%	↑

83% 17% ←日本の医師数の内訳  
(平成18年厚生労働省医師・歯科医師・薬剤師調査)

(2) 勤務施設:

開業医	50%
病院勤務医	50%

(3) 地域:

北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬
4.7%	2.0%	1.7%	2.3%	1.0%	1.0%	1.0%	0.7%	1.3%	0.7%
埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
1.3%	3.7%	18.3%	6.3%	1.7%	1.3%	1.3%	0.7%	0.0%	0.0%
岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
2.7%	0.3%	7.0%	1.3%	2.0%	3.3%	5.3%	4.7%	1.0%	0.3%
鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
0.7%	1.7%	2.0%	3.3%	0.0%	1.0%	1.3%	1.7%	1.0%	3.7%
佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄			
0.3%	0.7%	1.7%	0.3%	0.7%	0.7%	0.3%			

(4) 専門分野(科目):

次頁

(4) 専門分野(科目):

注:科目は複数選択。また科目の「系統」分類はQLife独自、かつ本集計に限定の方法。

内科系	46.3%	内科	36.3%
		神経内科	1.3%
		呼吸器科	3.7%
		消化器科	8.3%
		胃腸科	4.7%
		循環器科	6.7%
		アレルギー科	3.0%
		放射線科	1.7%
外科系	23.7%	リウマチ科	1.3%
		外科	9.7%
		整形外科	6.7%
		形成外科	1.0%
		美容外科	0.3%
		脳神経外科	3.0%
		呼吸器外科	1.7%
		心臓血管外科	1.0%
リハビリテーション科	4.0%		
精神科系	10.0%	心療内科	2.3%
		精神科	8.3%
		神経科	2.0%
産婦/泌尿肛門系	8.3%	皮膚泌尿器科	0.3%
		泌尿器科	3.0%
		性病科	0.0%
		肛門科	1.0%
		産婦人科	3.0%
		産科	0.7%
		婦人科	1.3%
小児/皮膚系	14.0%	小児科	7.7%
		小児外科	0.7%
		皮膚科	6.0%
眼/耳鼻咽喉系	11.3%	眼科	5.3%
		耳鼻咽喉科	5.3%
		気管食道科	1.0%
計	113.7%		142.3%

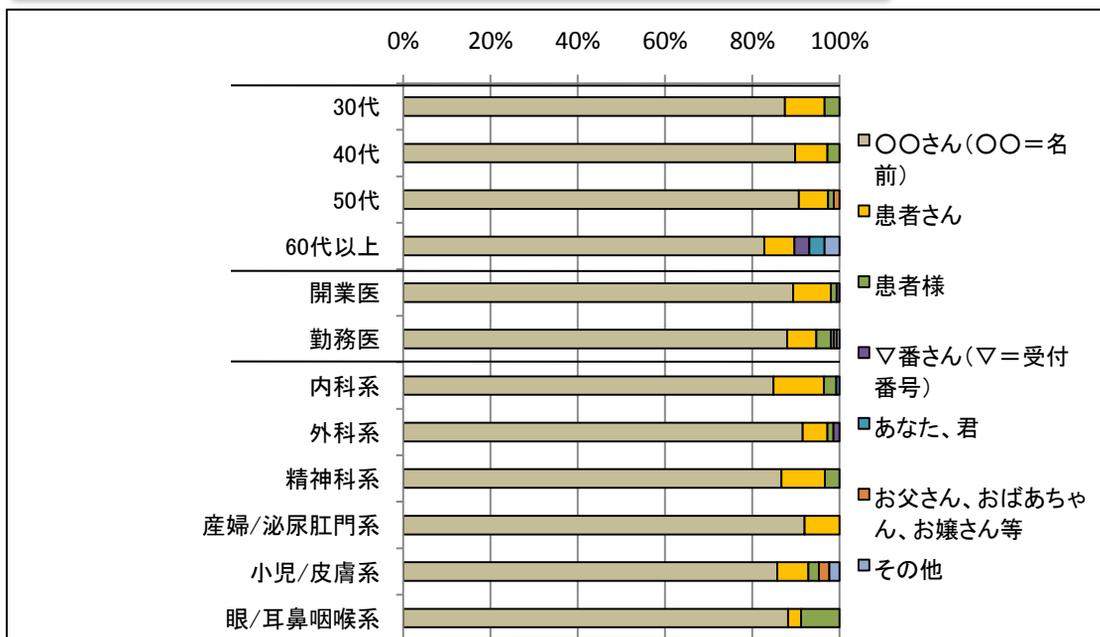
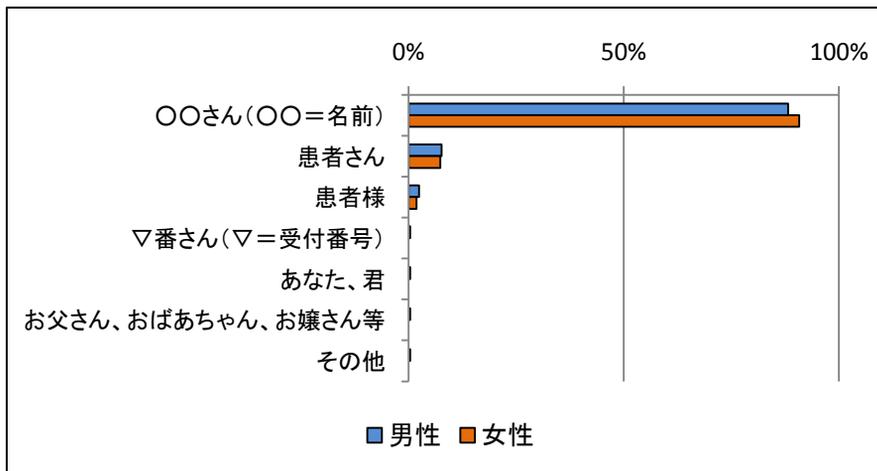
## 【調査結果の詳細】

### 1. 診察室内の会話で、患者さん(大人)をどう呼びたいですか。一番よいものを教えてください。

呼称はコミュニケーションの第一歩。「患者様」は“違和感ある”と新聞紙上などで批判されて、「患者さん」に戻す病院が増えるなど、「患者の呼び方」は医療現場で揺れている。

肝心の医師個人は、患者にどう呼びかけたいのだろうか。診察室における好ましい呼び名を選んでもらった。(注:設問上、場所を“診察室”に限定したのは、診察室は医師の支配下にあり、個人の考えや好みが実現されやすい空間と想定したから。また問診など医師が能動的に会話構築する場所でもあり、「患者との関係性」理想像が伺い知れると想定したからである。)

アンケートの結果は、「〇〇さん(=名前)」という呼び方が圧倒的の人気だった。89%もの医師が、一番好ましいと選んだ。渦中の「患者様」は、開業医に比べると病院勤務医でやや選択率が上がるものの、全体では2%どまり。かつて親しみも込めて多く使われていた「お父さん、おばあちゃん、お嬢さん等」の呼称を選ぶ医師は、ゼロに近かった。全体的に、“個性・個別事情を持ったひとりの人”として患者に接する姿勢が伺える。

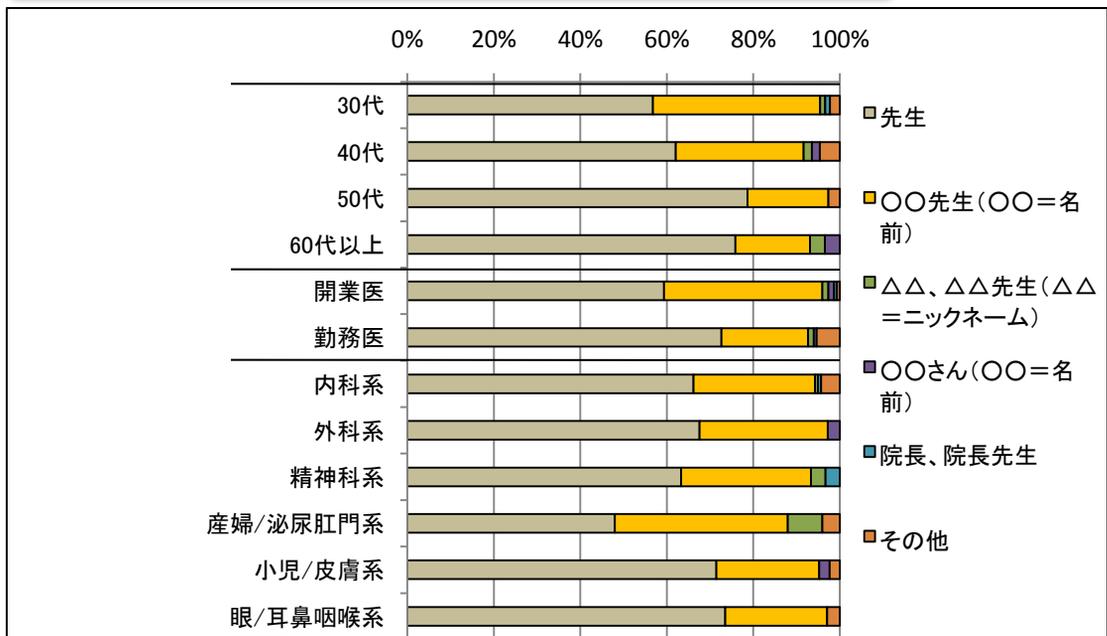
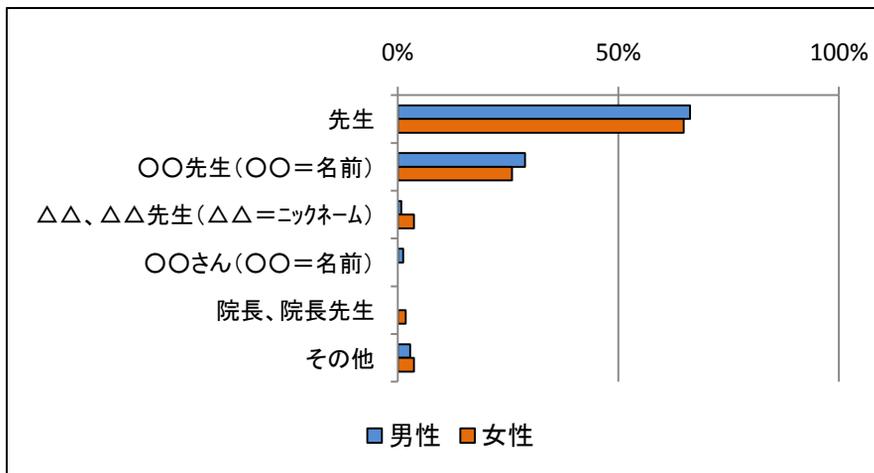


2. 診察室内の会話で、患者さん(大人)からどう呼ばれたいですか。一番よいものを教えてください。  
 (注:調査票では、“あなたが「院長」でない場合でも、「自分は院長」と仮定してお答えください”とした。)

では逆に、医師は患者から「どう呼ばれたい」のか。

結果は、66%が「先生」という呼び方を好むようだが、「〇〇先生(〇〇=名前)」を望ましいとした医師も28%いた。名前を付けるか否かの比率は、属性によって傾向が分かれる。例えば30代では39%、開業医では37%が、名前付きを好む。若年層や開業医の方が、より親近感ある関係性を患者との間に求める様子が伺える。

科目別では、産婦/泌尿肛門系(産科・婦人科・泌尿器科・肛門科など)や精神科系が、「〇〇先生(〇〇=名前)」や「△△、△△先生(△△=ニックネーム)」選択率が高い。デリケートな診療機会が多いほど、より近い関係を患者との間に築こうとする様子が伺える。



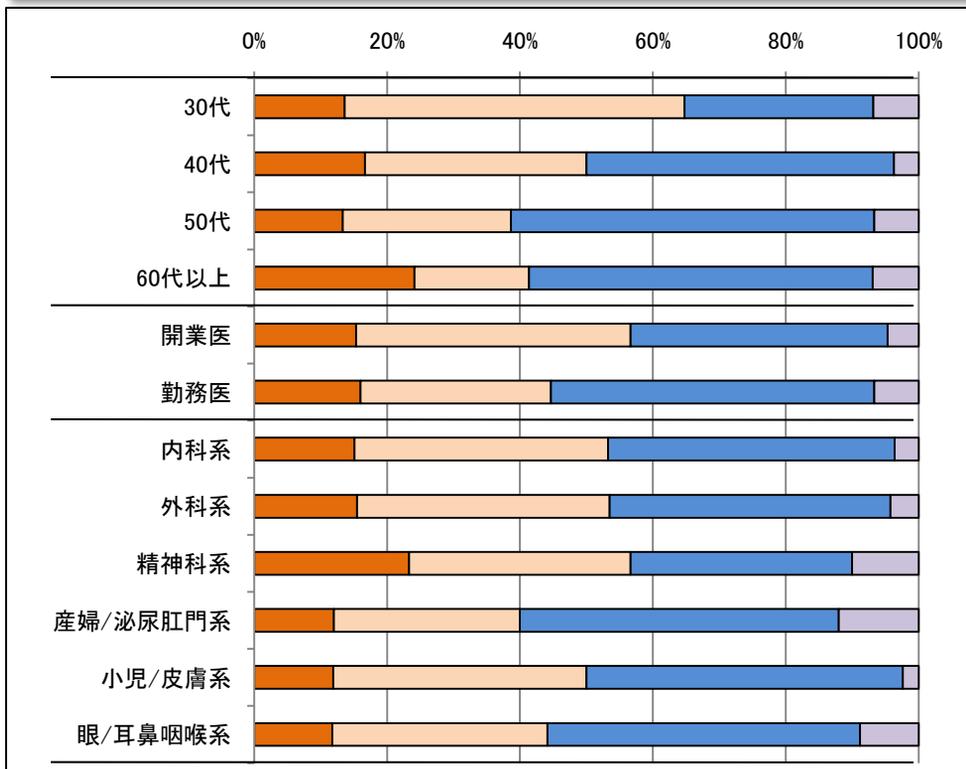
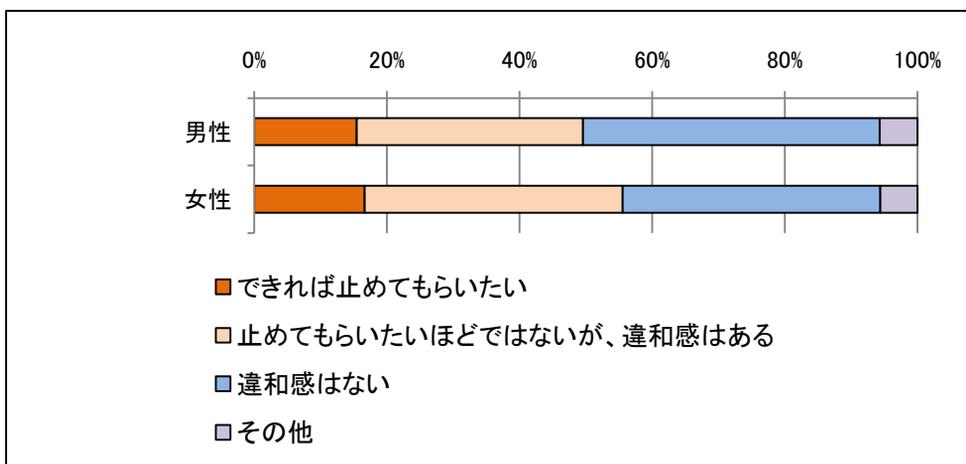
### 3. 業者から、自分のことを、「御待史/御侍史/御机下」と尊称されることをどう思いますか。

次は、患者から見えない場所での医師呼称だ。それは業者からの呼称。

医療業界の慣習では、書面上などでの医師呼称は「●●先生 御待史」と、尊称に脇付(わきづけ)が添えられる。一般的には“先生”だけでは敬意を表し足りない、とされる。

当の本人は、このように特別な呼ばれ方をすることをどう思っているのか、医師に聞いたところ、51%が“違和感ある”と答えた。うち16%は“できれば止めてもらいたい”と思っている。違和感を感じる率は、病院勤務医よりも開業医の方が、高い。

“慣習”は年を経るに従って慣れるもの。30代は65%が違和感を感じるが、50代以上では40%前後に減る。ただし、4割の人が数十年その文化に浸っても慣れない、不自然な慣習とも言えるだろう。

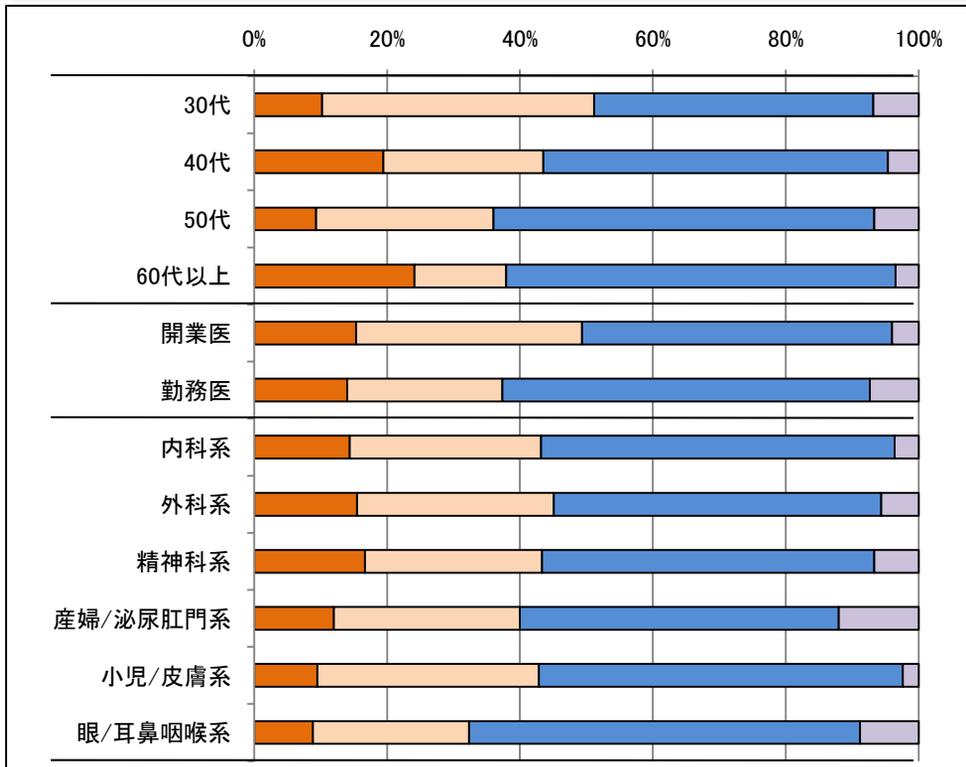
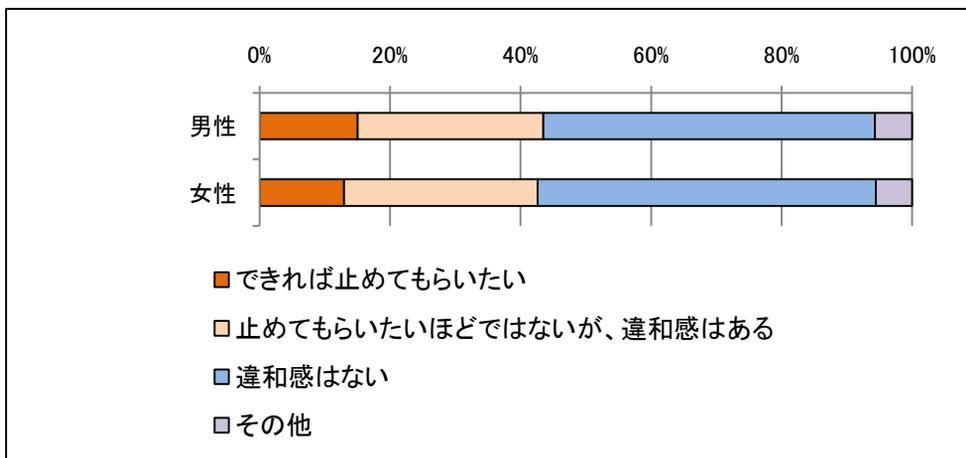


#### 4. 他の医師から、自分のことを、「御待史/御侍史/御机下」と尊称されることをどう思いますか。

では、同様の「御待史」尊称(脇付)を、業者からではなく、「他の医師」から使われるケースについては、どう思っているのだろうか。医師同士での「御待史」は、紹介状を書く場面などで使われる。

結果を見ると、業者から呼ばれる時よりも、同業者から呼ばれる時の方が、特別尊称に違和感を覚える人が少ないようだ。“止めてもらいたい”が15%いるが、51%は“違和感ない”と答えた。

相手が医師の方が、プロ同士として尊敬の念が自然ということだろうか。あるいは、紹介状を書く際に「私に対処できない患者さんをどうぞ宜しくお願いします」という謙譲の念と、謹んで委ねる意味合いが込められるからだろうか。もしこの解釈が正しいとすると、業者から言われるケースよりも“違和感はない”が10ポイント以上増える「眼/耳鼻咽喉系」や「精神科系」は、より専門職意識が強いのかも知れない。ちなみに「女性」セグメントも、医師同士の方が“違和感ない”13ポイント増える。



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 山内善行

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

---